

Chilled & Frozen Logistics Holdings Co., Ltd.



C&F LOGISTICS

第8期 中間報告書

2022年4月1日 ▶ 2022年9月30日

株式会社C&Fロジホールディングス



証券コード：9099

持続可能な低温物流の実現と新たな領域への挑戦



代表取締役
社長執行役員 **綾 宏將**

Q 食品物流業界を取り巻く環境と当期の業績について教えてください

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は継続しているものの、経済活動や消費行動の制限は徐々に緩和され、平常化に向けた動きとなっております。しかしながら、ウクライナ情勢に起因するエネルギー価格や原材料価格の急騰に加え、為替相場の円安進行による輸入物価の値上がり等もあり、経済の先行きは依然として不透明なまま推移いたしました。

当社グループが主軸をおく低温食品物流業界におきましては、ライフスタイルの変化を背景として冷凍・冷蔵食品の貨物需要は底堅いものの、コロナ禍からの回復程度にばらつきがあり、外食機会の減少により落ち込んでいた業務用食品の荷動きは回復してきた一方で、インバウンド需要の回復はまだまだ見込めないなど、本格的な需要回復には至らない状況が継続することとなりました。

このような食品需要の急激な変化の中、当社グループは今年度より新たな中期経営計画を策定いたしました。基本方針として「新たなコールドチェーンのニーズをつなぐ、持続可能な低温物流の実現」を設定し、当社グループが誇るチルド・フローズン物流を通じ、食のライフラインの維持と豊かな社会の実現を達成するための効果的な施策を実施してまいります。収益の拡大施策といたしましては、成長著しいEC関連の食品物流事業への取り組みを開始し、医薬品物流においては、着実に輸配送実績を積み重ねることで更なる業容拡大を図ってまいりました。しかしながら、想定を上回るエネルギー価格の高騰の継続により、主に冷凍・冷蔵倉庫で使用する電気料金や輸配送トラックで使用する燃料費が大幅な増額となり、利益を押し下げる結果となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、営業収益は57,161百万円(前年同期比1.6%増)、営業利益は2,630百万円(前年同期比13.2%減)、経常利益は2,956百万円(前年同期比10.8%減)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、1,984百万円(前年同期比10.2%減)となりました。

Q 今後の見通しについて教えてください

当社は最近の業績動向を踏まえ、2022年10月14日に業績予想の修正に関するお知らせを公表いたしました。2023年3月期につきましては、世界的な資源価格の高騰や急激な円安の影響によって、冷凍・冷蔵倉庫で使用する電力料金の高騰と輸配送トラックで使用する燃料費が上昇し、エネルギー価格の高騰が当初予想を超える水準で推移していることを考慮し、各コスト増を織り込みました。一方で、顧客に対しては燃料サーチャージや電力料金コスト増に対応する料金交渉を進めており、一定の効果額を織り込んでおりますが、コスト増をカバーするまでには至らない見込みのため、各段階の利益額を減額修正いたしました。

以上のことを踏まえ、第三次中期経営計画1年目である2023年3月期の連結業績につきましては、営業収益112,800百万円、営業利益4,100百万円、経常利益4,600百万円、親会社株主に帰属する当期純利益3,000百万円を見込んでおります。

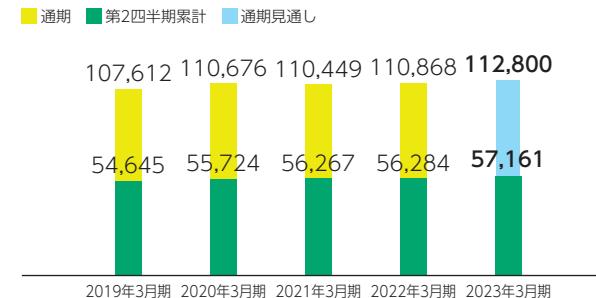
Q 配当の考え方について教えてください

当社は安定配当を基本としていた従来の配当方針を見直し、短期的・中長期的な配当性向の目標値をそれぞれ定め、それに基づき配当額を決定することとしております。短期的には配当性向20%以上を基準として配当額を決定し、中長期的には配当性向30%以上を目標としております。

この方針により当期の配当につきましては、1株当たりの年間配当金は28円00銭(中間配当14円00銭、期末配当14円00銭)を計画しております。

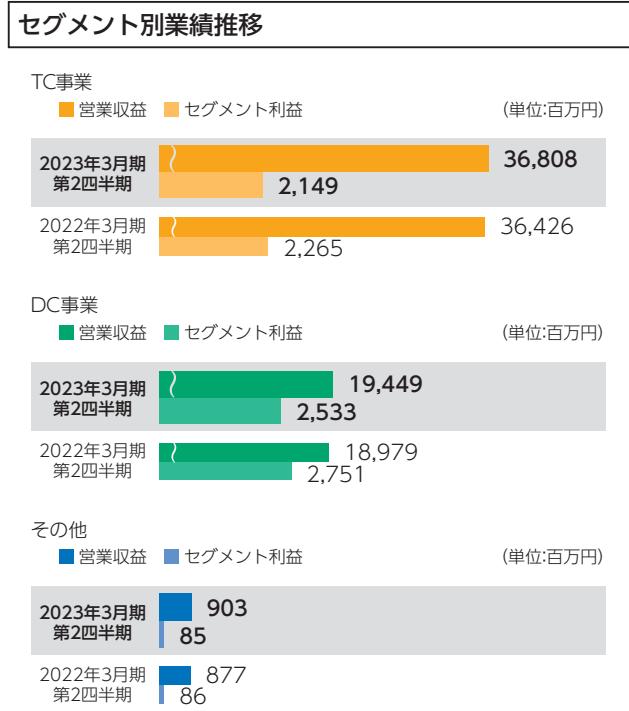
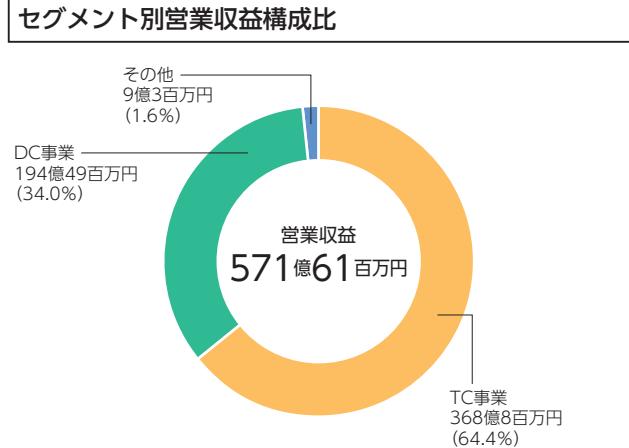
連結財務ハイライト

営業収益 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)





TC事業 (通過型センター事業)

事業内容

主にチルド食品を中心とした低温食品の物流センター運営と冷蔵車両による輸配送を行う事業。受注から納品までの時間が短く様々な時間帯に対応するため、365日24時間体制で運営しております。

チルド食品は、商品の入庫から出庫までの保管期間が短く、預かり在庫をほとんど持たない(≒通過型)事業モデル。

業績概要

コロナ禍によって落ち込んだ需要の回復が遅れている顧客の物量は低迷が続く一方で、テレワークの浸透や購買行動の変化を主因としていた都心エリアのコンビニエンスストア関連の物量低下は徐々に回復し、新たな物流施設の開設に伴う新規業務・新規取引先の獲得等も加わり、営業収益は36,808百万円(前年同期比1.0%増)となりました。

セグメント利益につきましては、自社車両を活用した配送効率化の推進は継続しているものの、原油価格の上昇に伴う燃料費の増加や新規施設の稼働に伴う減価償却費等の固定費の増加などにより、2,149百万円(前年同期比5.1%減)となりました。

営業収益 **368億8百万円**

セグメント利益 **21億49百万円**



DC事業 (保管在庫型物流事業)

事業内容

主に冷凍食品の保管・荷役及び輸配送を一体的に行う事業。当社の倉庫内にて多様な寄託貨物の保管・名義変更や車両別・届先別の仕分けを行うとともに、冷凍車両による輸配送業務を行っております。

冷凍食品は、保管期間が長く、預り在庫を持つ(≒保管型)事業モデル。

業績概要

既存事業における物流再編の影響により減収となった顧客はあったものの、外食機会の回復により業務用冷凍食品の物量は回復し、市販用冷凍食品の物量も堅調に推移したことや、新たな物流施設の稼働に伴う新規業務の受託等によって収益を確保し、営業収益は19,449百万円(前年同期比2.5%増)となりました。

セグメント利益につきましては、再保管在庫の減少による外注費の削減はあったものの、エネルギー価格の高騰による電気料金や燃料費の上昇、新規施設の稼働に伴う減価償却費等の固定費の増加などにより、2,533百万円(前年同期比7.9%減)となりました。

営業収益 **194億49百万円**

セグメント利益 **25億33百万円**



その他

事業内容

警備業法に基づく、首都圏の金融機関で取り扱う現金・貴重品・手形等の重要書類の配送、病院向けリネン類の集荷配送、在宅介護用品の宅配、物流事業者向けの乗務員・倉庫オペレーター・事務員等の人材派遣、当社グループならびに取引先の保険代理店業務、保育事業等を行っております。

業績概要

警備輸送業・病院等関連物流業・人材派遣業・保険代理店業等により営業収益は903百万円(前年同期比2.9%増)、セグメント利益は85百万円(前年同期比0.6%減)となりました。

営業収益 **9億3百万円**

セグメント利益 **85百万円**

新拠点の紹介

■ (株)ヒューテクノオリン中部支店 三期増築棟



愛知県小牧市に2022年2月1日より稼働いたしました当増築棟は、東名高速道路・名神高速道路の小牧ICより約1.2km、中部支店の既存棟の真向かいに増築されました。延床面積は約3,000坪、収容能力は約1万4,000t(収容パレット数8,500PL)、ドックシェルター11基を備えております。また、既存棟との間に低温環境下で約80PL/hの搬送能力がある棟間コンベアを2ライン備えることで、既存棟と連動した高効率な物流施設となっております。



左側建物：三期増築棟、右側建物：既存棟、上側接続部：棟間コンベア

■ 名糖運輸(株) 岡山物流センター



岡山県岡山市に2022年2月27日に開設いたしました当センターは、山陽自動車道・瀬戸中央自動車道の早島ICの近隣に位置しており、中四国エリア全域をカバーする物流拠点となっております。

延床面積は約1,400坪、冷凍倉庫203坪(冷蔵へ変更可能)、冷蔵倉庫990坪、ドックシェルター18基(大型12基・中型6基)、オーバースライダー1基を備えており、内部は集中温度管理システムによって冷凍機を最適運転し、省エネルギー化を図っております。中四国エリアのCVSセンター・量販店センター向けの在庫型チルド共配センターとして、エリアの共同配送のさらなる充実を図り、西日本における共同配送物流の強化に取り組んでおります。



■ (株)ヒューテクノオリン関西支店 大阪南港営業所

大阪市住之江区に2022年5月1日より稼働いたしました。

■ 名糖運輸(株) 北関東センター

名糖運輸(株)群馬営業所と子会社である(株)トランスメイト関東北部営業所を統廃合し、群馬県伊勢崎市に2022年10月1日より稼働いたしました。

サステナビリティ経営

ESG関連方針の制定について

当社グループは以下のESG関連方針を策定いたしました。当社グループが目指す持続可能な低温物流を実現するためには、人権問題や気候変動問題などサステナビリティ課題の解決が不可欠であると考えております。

国際関連機関・国際会議の枠組みに基づく世界共通の課題を捉えながら、事業活動を通じて様々な社会課題の解決に取り組む、社会の持続可能な発展、価値創造に貢献するための重要な指針としております。

(※本年12月に当社ホームページに掲載予定)

- ◆人権方針
- ◆調達基本方針
- ◆税の透明性に関する方針
- ◆環境方針
- ◆腐敗防止方針

マテリアリティ(重要課題)への取り組み事例

環境対策 | 事業モデルを通じた取り組み

当社グループが他社に先駆けて事業化した共同配送物流におきましては、複数の顧客からお預かりした商品を当社倉庫にて一元管理・保管をし、納品先別に仕分け、配送に使用する車両台数を削減する効率的な配車組みを行っております。車両の積載効率を高め、CO₂排出量の削減に貢献する取り組みとなっております。



人権 | 交通事故、労働災害防止の取り組み

安全で働きやすい職場環境を形成するため、法令遵守や安全衛生活動、リスクアセスメント活動や、運輸安全・労働安全衛生マネジメントシステムの定期的な見直し等を通じ、職場に潜む危険源を事前に把握し、策定したリスク低減策を周知、徹底させることで交通事故や労働災害の撲滅に取り組んでおります。

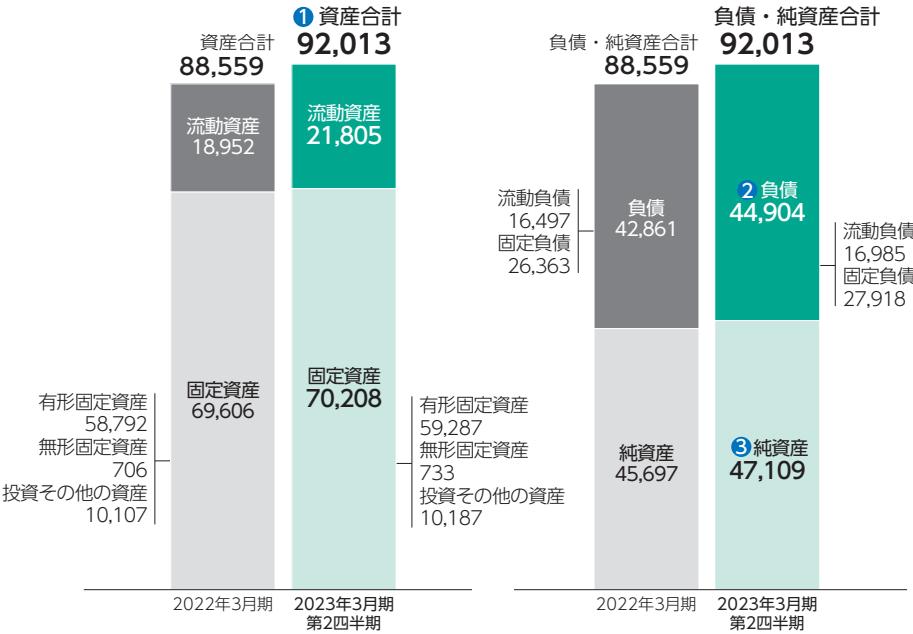


多様性 | 女性の活躍支援

女性の活躍を推進するため、「女性社員リーダーシップ研修」を開催し、女性ならではの強みを生かしたマネジメントスキルや新しい時代に適したリーダーシップを学ぶ機会を創出しております。また、乗務員、作業員、フォークリフトオペレーター、管理職、営業担当など、様々な職種におきまして女性の採用を積極的に行い、性別による職種認識の緩和を推進しております。

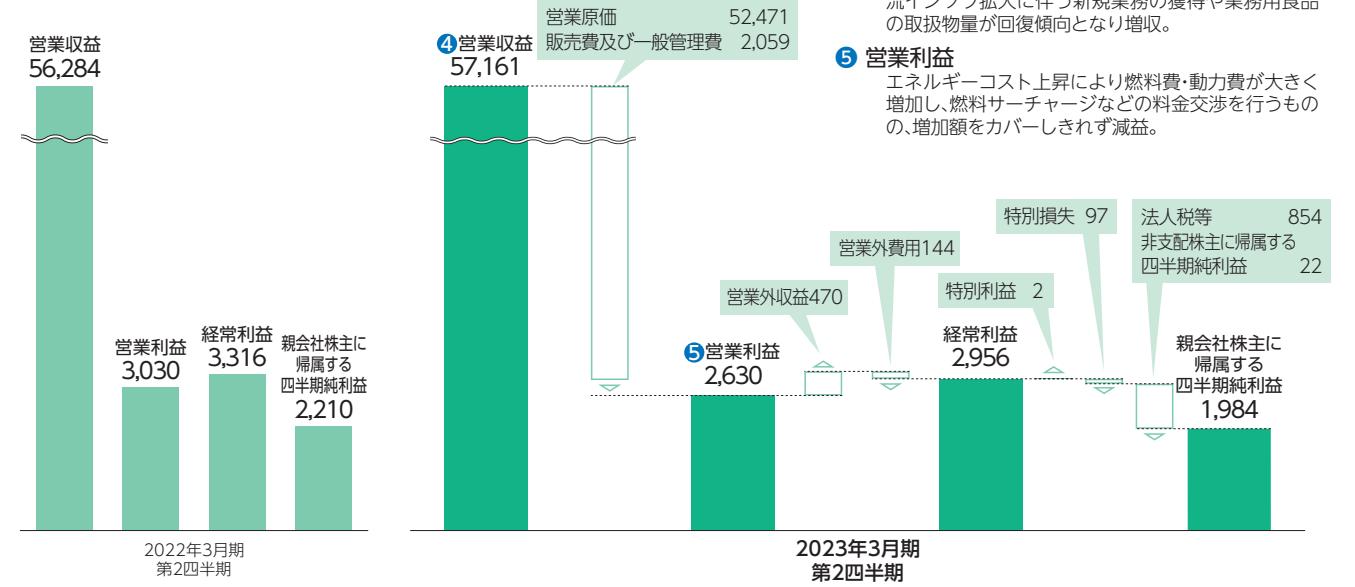


財政状態 (単位: 百万円)



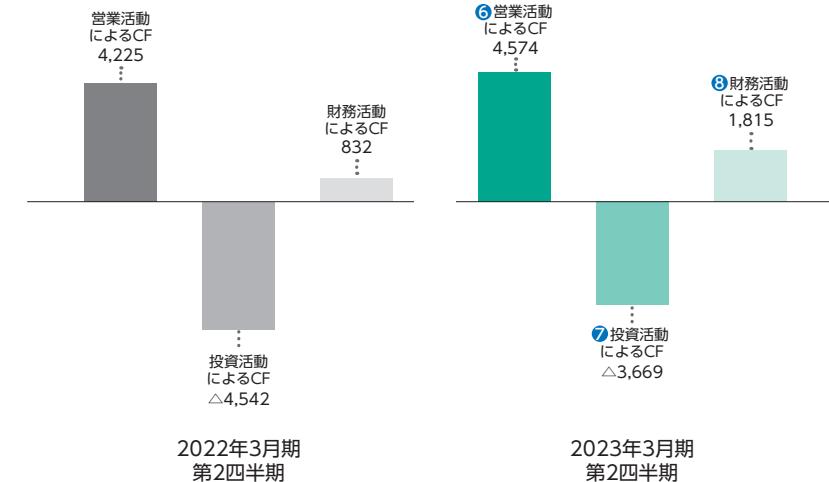
- ① 資産
主に、「現金及び預金」、「建設仮勘定」の増加。
- ② 負債
主に、「長期借入金」の増加。
- ③ 純資産
主に、「利益剰余金」の増加。

経営成績 (単位: 百万円)



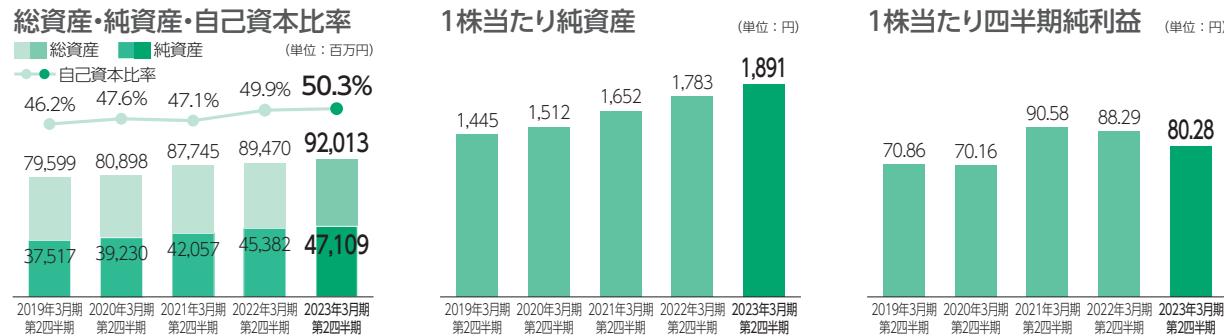
- ④ 営業収益
一部顧客の業務終了等の減少要因はあったものの、物流インフラ拡大に伴う新規業務の獲得や業務用食品の取扱物量が回復傾向となり増収。
- ⑤ 営業利益
エネルギーコスト上昇により燃料費・動力費が大きく増加し、燃料サーチャージなどの料金交渉を行うものの、増加額をカバーしきれず減益。

キャッシュ・フローの状況 (単位: 百万円)



- ⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー
主に、「税金等調整前四半期純利益」に非資金取引の「減価償却費」を加え、「法人税等の支払額」を差し引いた金額。
- ⑦ 投資活動によるキャッシュ・フロー
主に、有形固定資産の取得による支出。
- ⑧ 財務活動によるキャッシュ・フロー
主に、「長期借入れによる収入」から「長期借入金の返済による支出」及び「リース債務の返済による支出」を差し引いた金額。

連結財務指標



会社概要 (2022年9月30日現在)

会社名 株式会社C&Fロジホールディングス
 (英文社名) Chilled & Frozen Logistics Holdings Co., Ltd.
 設立年月日 2015年10月1日
 本店所在地 〒162-0056
 東京都新宿区若松町33番8号
 Tel. 03-5291-8100 (代表)
 事業の内容 貨物運送事業、倉庫事業等を行う傘下子会社及び
 グループの経営管理ならびにこれに関連する事業
 資本金 4,000百万円
 従業員数 171人 (単体) 5,944人 (連結)
 (社員・準社員等 合計 11,544人 (連結))

役員 (2022年9月30日現在)

取締役
 代表取締役 綾 宏 將
 代表取締役 武 藤 彰 宏
 取締役 矢 田 市 郎
 取締役 安 喰 徹 宏
 社外取締役 水 谷 彰 宏
 社外取締役 (監査等委員) 杉 田 一 行
 社外取締役 (監査等委員) 高 木 伸 保
 社外取締役 (監査等委員) 館 羽 充 史
 社外取締役 (監査等委員) 鳥 羽 史 郎

執行役員
 社長執行役員 綾 宏 將
 専務執行役員 武 藤 彰 宏
 常務執行役員 酒 光 修 史
 常務執行役員 坂 内 茂 昭
 常務執行役員 菅 原 剛 一
 執行役員 若 田 部 守 一
 執行役員 山 宮 隆 昭
 執行役員 小 山 雄 三

株主の状況

株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	25,690,766株
1単元の株式数	100株
総株主数	8,035人

大株主の状況 (2022年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,213	8.99
マルハニチロ株式会社	1,718	6.98
協同乳業株式会社	1,491	6.06
農林中央金庫	1,243	5.05
共栄火災海上保険株式会社	1,231	5.00
C&Fロジホールディングス従業員持株会	871	3.54
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND	792	3.22
C&Fロジホールディングス取引先持株会	791	3.21
J A三井リース株式会社	746	3.03
和佐見 勝	728	2.96

(注) 1. 持株比率は自己株式 (1,085,572株) を控除して計算しております。
 2. 上記の自己株式には、業績連動型株式報酬制度のために設定した、三井住友信託銀行株式会社 (再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行) が所有する当社株式113,800株は含まれておりません。
 3. 持株数は千株未満、持株比率は小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

毎年3月31日 (基準日) 現在の株主名簿に記載または記録された1単元 (100株) 以上を保有していただいている株主様を対象といたします。

株主優待の内容	100株以上	500株未満	500株以上	1,000株未満	1,000株以上
	豆菓子 (あとひき豆ピーナッツ)		新潟県魚沼産コシヒカリ (新米) 3kg		新潟県魚沼産コシヒカリ (新米) 5kg



贈呈時期は、新米の収穫時期に合わせて全ての対象株主様に対して毎年10月中旬に発送しております。

株主さま向けアンケート

当社は、株主の皆さまの声を聞かせたいため、アンケートを実施します。お手数ですが、アンケートへの協力を願います。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード いいかぶ

空メールにより URL 自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

スマートフォンからカメラ機能でQRコード読み取り→ QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝 (QUOカードPay500円) を進呈させていただきます

※本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主サーチ」サービスにより実施いたします。https://www.link-cc.co.jp

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ先「e-株主サーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

株主メモ

上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
議決権の基準日	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	毎年3月31日及び9月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵送物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	☎0120-782-031 (受付時間 土・日・祝日及び12/31~1/3を除く9時~17時)
公告方法	電子公告 (https://www.cflogi.co.jp) ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

ホームページのご案内

当社情報は、下記URLでご案内しております。また、ホームページのデザインをリニューアルいたしました。是非ご覧ください。

<https://www.cflogi.co.jp>



株式会社C&Fロジホールディングス



UD FONT